

全日本柔道選手権で上川選手が準優勝 8 月の世界選手権出場へ

全日本柔道選手権大会が 4 月 29 日、日本武道館（東京都千代田区）で行われ、京葉ガス柔道部の上川大樹選手が準優勝しました。



準決勝で一本を決める

体重無差別で柔道日本一を決める大会は地区予選を勝ち上がった選手など 42 人が出場し、6 分の試合時間によるトーナメント方式で争われました。

上川選手は初戦の 2 回戦と 3 回戦を一本勝ちし、準々決勝の 4 回戦では相手選手が「指導」を 4 回受けて反則負けとなり、駒を進めました。準決勝では終了間際に一本勝ちを収めたものの決勝で敗れ、大会初優勝にあと一步及びませんでした。

京葉ガス柔道部員のこれまでの本大会での最高成績は 5 位（ベスト 8）で、昭和 45 年の創部以来、初めての準優勝となりました。

大会後、全日本柔道連盟が 8 月の世界選手権（ロシア・チェリャビンスク）男子日本代表の最終選出を行い、100 kg 超級に上川選手らが選ばれました。これを受けて上川選手は「優勝しなかったのが（決勝で敗れ）悔しい思いでいっぱい。この悔しさをばねにして、世界選手権で優勝を目指したい」と話しました。



▽2回戦：1回戦を勝ち上がってきた猪又秀和選手（東京学館新潟高校教員）と戦い、開始2分13秒に払い腰で一本を決めて幸先のいいスタートを切りました。



▽3回戦・4回戦：野村幸汰選手（三光不動産）に対し4分56秒に得意の内股で一本を決めると、準々決勝の4回戦では吉永慎也選手（新日鐵住金）に攻めさせず優位に試合を進め、試合中盤までに吉永選手が反則負けとなる「指導」を4回受け、準決勝に駒を進めました。

▽準決勝：決勝進出を懸け、西潟健太選手（旭化成）と対戦。終盤まで両者がともに攻め合う拮抗（きっこう）した展開となりましたが、残り9秒、上川選手が送り足払いを決め一本勝ちしました。

▽決勝：王子谷剛志選手（東海大学4年）と戦い、4分過ぎに一本を奪われ大会初優勝にあと一步及びませんでした。